



## 第99期 中間報告書

平成22年4月1日 ~ 平成22年9月30日



**参天製薬株式会社**

証券コード：4536

## コーポレートプロフィール

参天製薬は、眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域に特化した独自性ある医薬品企業として、人々の目から目の健康維持・増進に貢献しています。売上高の約80%を占める医療用眼科薬では、あらゆる眼科疾患に対する優れた医薬品の創製と医療現場のニーズに即した情報提供に取り組み、国内No.1の地位を獲得しています。すでに日米欧の3種で臨床開発・販売体制を構築し、卓越した研究開発能力に根ざした独自性ある製品を世界に供給する「世界で存在意義のある企業」となることを目標としています。

参天製薬は、社名の由来でもある「天機に参与する」※という基本理念に基づき、目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それにより参天製薬ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たしてまいります。

※ 中国の古典、四書五経の1つである「中庸」の一節「天地の化育を賛く可ければ、則ち以って天地と参となる可し」を解釈したものです。

## 目次

株主の皆さまへ	1
財務ハイライト	3
第2四半期連結業績レポート	4
主要な医薬品開発状況一覧表	8
四半期連結財務諸表	9
取締役、監査役および執行役員	11
会社概要	12
株式の状況	13
株主メモ	14

### 見直しに関する注意事項

この中間報告書は、参天製薬の戦略・計画・業績などに関する将来の見直しを含んでいます。この見直しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向などさまざまな要素により、これら見直しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに、第99期の中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。



代表取締役社長 兼 CEO

黒川 明

参天製薬は、2015年に「世界の参天」を実現することを長期構想に掲げております。その第一ステップとして、「世界の参天」に向けた新薬候補の準備と、強みが発揮できる地域での成長を基本方針とした「2006-2010中期経営計画」に取り組んでいます。

計画5年目となる当第2四半期までの国内医療用眼科薬市場は、緑内障・高眼圧症治療剤などの伸長により、前年同期と比べ若干拡大しました。また、海外医療用眼科薬市場は欧州、アジアともに総じて堅調に推移しました。一方、国内一般用眼科薬市場は、需要の減少に加えて、流通価格下落の影響があり、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動に注力し、当社製品の順調な市場浸透が進んだものの、前年同期に海外におけるライセンス契約に伴う一時金収入が含まれていた影響により、売上高は前年同期と比べ8.8%減少し、539億1千4百万円、営業利益は前年同期と比べ25.9%減少の141億1千2百万円、経常利益は前年同期と比べ23.2%減少の144億9千万円、当第2四半期純利益は前年同期と比べ20.5%減少し、92億7千2百万円となりました。

研究開発におきましては、角膜疾患領域において、米国にてDE-110の第Ⅱ相試験を開始しました。また、緑内障領域においては、配合剤DE-111の第Ⅰ相PK試験\*を日本で開始し、欧州では第Ⅲ相試験を準備中です。

中間配当金につきましては、1株当たり40円とさせていただきます。

中期経営計画ならびに長期構想の実現を通して、企業価値を持続的に拡大し、株主の皆さまの信頼に応えていく所存です。

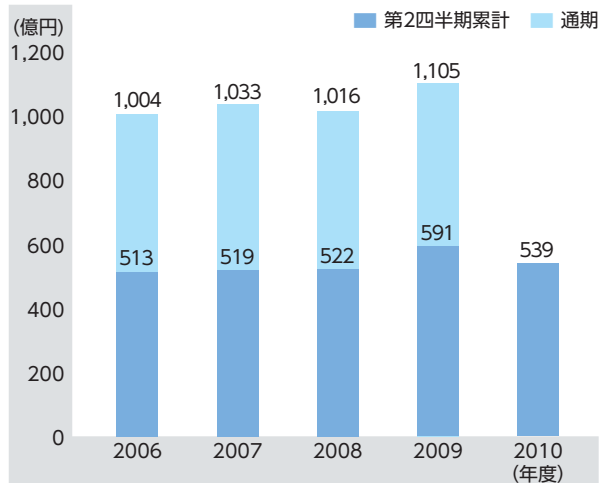
経営陣を代表して、皆さまの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月

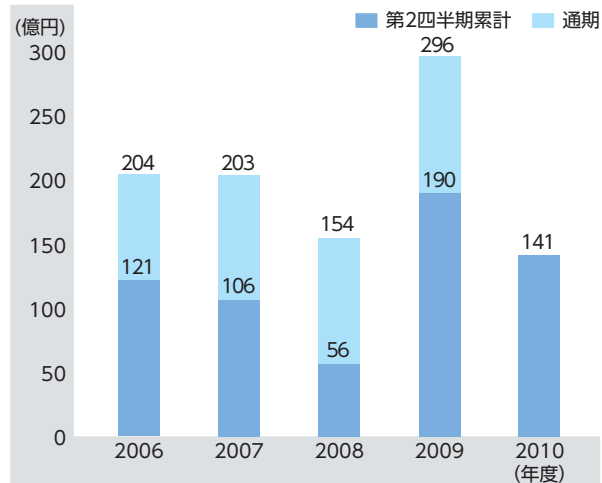
\*PK試験：薬物動態 (Pharmacokinetics) 試験。生体内に投与された薬物の体内動態を明らかにする試験。

# 財務ハイライト

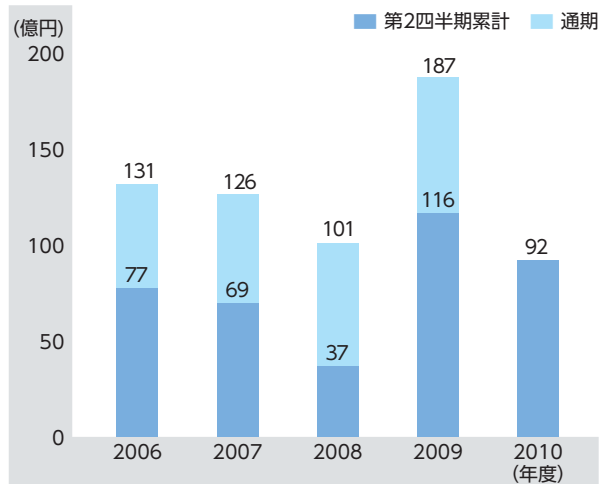
## 連結売上高



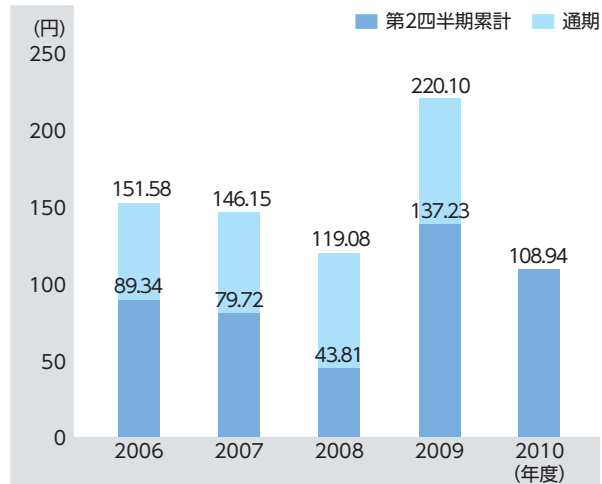
## 連結営業利益



## 連結当期純利益



## 連結1株当たり当期純利益



## ■ 当第2四半期までの概況 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)

### 業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響はありましたが、網膜疾患治療剤および緑内障治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアを中心に堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少に加えて、流通価格下落の影響があり、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第2四半期の業績は、次のとおり減収減益となりましたが、これは前年同期におけるライセンス契約に基づく一時金収入55億5千6百万円計上による売上・利益の増加等、一時的な要因によるものであり、これらを除いた売上・利益は、順調に推移しました。

(単位 百万円)

	当第2四半期累計	前第2四半期累計	前年同期増減率
売上高	53,914	59,123	△ 8.8%
営業利益	14,112	19,036	△ 25.9%
経常利益	14,490	18,875	△ 23.2%
四半期純利益	9,272	11,670	△ 20.5%

ライセンス契約に基づく一時金収入を控除した比較は、以下の通りとなります。

(単位 百万円)

	当第2四半期累計	前第2四半期累計	前年同期増減率
売上高	53,648	53,567	0.2%
営業利益	13,845	13,480	2.7%

売上高は、前年同期から8.8%減少し539億1千4百万円となりました。主力の国内医療用医薬品事業においてマイナス5%台半ばの薬価改定の影響があったものの、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」等を中心に売上を拡大し、前年同期のライセンス契約に基づく一時金収入を除いたベースでは、ほぼ横ばいで推移しました。営業利益は、前年同期から25.9%減少し141億1千2百万円となりましたが、前年同期のライセンス契約に伴う一時金収入を

除いたベースでは、売上同様に堅調に推移し2.7%増加となりました。売上原価は174億3千5百万円、売上原価率は32.3%となりました。販売費及び一般管理費については223億6千6百万円、このうち研究開発費は63億7千9百万円となりました。経常利益は、前年同期から23.2%減少し、144億9千万円となりました。四半期純利益は、前年同期から20.5%減少し、92億7千2百万円となりました。

## セグメント別業績の状況

当社は、医薬品事業とその他事業の二つの事業セグメントから構成されます。医薬品事業の売上高は、前年同期から9.3%減少し529億6千4百万円となりましたが、前年同期に発生した海外におけるライセンス契約に伴う一時金収

入を除いたベースでは、ほぼ横ばいとなりました。一方、その他事業の売上高は、眼内レンズ「エタニティー」が順調に市場に浸透した結果、29.7%増加し9億5千万円となりました。

(単位 百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	45,236	△ 0.7%	7,728	△ 39.9%	52,964	△ 9.3%
医療用医薬品	42,734	△ 0.1%	7,722	△ 39.9%	50,456	△ 9.2%
うち眼科薬	37,423	0.3%	7,463	4.0%	44,887	0.9%
うち抗リウマチ薬	4,987	△ 1.0%	57	△ 0.6%	5,045	△ 1.0%
うちその他医薬品	322	△ 24.0%	201	△ 96.4%	523	△ 91.3%
一般用医薬品	2,502	△ 9.9%	5	△ 65.5%	2,507	△ 10.2%
その他事業	679	52.2%	271	△ 5.3%	950	29.7%
医療機器	673	54.1%	271	△ 5.3%	944	30.6%
その他	5	△ 38.8%	—	—	5	△ 38.8%
合計	45,915	△ 0.1%	7,999	△ 39.1%	53,914	△ 8.8%

(注) 各セグメントの売上高は外部顧客に対する売上高を表しています。

### 医薬品事業

当第2四半期の医薬品事業の売上高は、前年同期から9.3%減少し529億6千4百万円となり、営業利益は、144億3千2百万円となりました。これは、前年同期には海外においてライセンス契約に伴う一時金収入が含まれていることによるもので、その影響を除いた場合の前年同期比は、売上・利益ともに、ほぼ横ばいとなりました。

#### ■ 医療用医薬品

##### ■ 眼科薬<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施した結果、

国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ0.3%増加し374億2千3百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透し、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」は、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性などにより数量ベースでは順調な伸びを示しましたが、薬価改定の影響により、減少しました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」はほぼ横ばい、抗アレルギー点眼剤領域では、薬価改定の影響に加えて、スギ花粉の飛散が前年同期と比べ小規模であったことや競争の激化もあり、「リボスチン点眼液」が減少しました。

### ■眼科薬<海外>

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ4.0%増加し74億6千3百万円となりました。欧州では、医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツ等において緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

### ■抗リウマチ薬

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、薬価改定の影響はあったものの、前年同期と比べほぼ横ばいの50億4千5百万円となりました。

### ■その他医薬品

その他医薬品は、ライセンス契約に伴う一時金収入・ロイヤルティ収入、受託製造等が含まれます。当第2四半期は、前年同期と比べ91.3%減少し5億2千3百万円となりました。これは前述の通り、前年同期にはライセンス契約に伴う一時金収入が含まれていることによるものです。



### ■一般用医薬品

一般用医薬品の売上高は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬の中で「サンテメディカル10」、「サンテ40i」および「サンテFX Vプラス」を中心に販売促進に注力しましたが、国内における需要の減少や競合の影響もあり、前年同期と比べ10.2%減少し25億7百万円となりました。



### ■その他事業

当第2四半期のその他事業の売上高は、前年同期から29.7%増加し9億5千万円となり、営業損失は、3億2千万円となりました。

### ■医療機器

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期から30.6%増加し9億4千4百万円となりました。

### ■その他

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、5百万円となりました。

## 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、16カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月に香港、次いで5月に韓国で発売し、中国では第Ⅲ相試験を実施中です。また、平成21年4月には、メルク社とのライセンス契約締結により、西欧（ドイツを除く）、北米、南米およびアフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月以降、イギリス、スペイン、イタリアなど合計11カ国でタフルプロストを販売しており、米国でも開発を継続しています。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で30カ国となりました。

また、緑内障・高眼圧症を適応症として配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモールマレイン酸塩）の臨床試験（第Ⅰ相PK試験\*）を日本で開始しました。また、欧州では第Ⅲ相試験を準備中です。なお、ROCK阻害剤のDE-104（一般名：未定）は、米国における臨床試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）の成績等を検討した結果、新薬として所期の達成基準を満たすことが困難であると判断したため、点眼剤の開発を中止しました。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年4月にドライアイ治療剤として日本での製造販売承認を取得し、現在、発売準備中です。中国においても第Ⅲ相試験を実施中です。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101（一般名：リボグリタゾン）は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験結果を踏まえ、日本では後期第Ⅱ相試験を、米国では高用量製剤を追加した臨床試験（第Ⅰ相／第Ⅱ相試験）をそれぞれ実施中です。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。さらに、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110（一般名：未定）も、ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とした第Ⅱ相試験を米国で開始しました。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。また、滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫を適応症としたDE-109（一般名：シロリムス）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、日本において平成22年2月に製造販売承認を申請し、現在、承認審査中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／第Ⅱ相試験）を欧州と日本で実施中です。



# 主要な医薬品開発状況一覧表

(平成22年11月現在)

一般名	開発コード	効能・効果	地域	フェーズ			申請	承認	発売	特長など
				1	2	3				
角結膜疾患領域										
ジファホルナトリウム	DE-089	ドライアイ	日本 アジア	2010年4月						角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年4月、日本にて製造販売承認を取得し、現在発売準備中。中国にてフェーズ3実施中。
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	米国 日本	(フェーズ 1/2)						主にドライアイに伴う角結膜上皮障害に対する改善効果を期待。現在発売および開発中の薬剤と異なる作用機序を有し、角結膜上皮細胞に直接働きかける点眼薬。
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	米国 日本							既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞進展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。
未定	DE-110	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	米国							選択的グルココルチコイド受容体作動薬 (SEGRA)。ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象として、米国でフェーズ2開始。
緑内障領域										
タフルプロスト	DE-085	緑内障・ 高眼圧症	日本 欧州 米国 アジア				2008年12月 2008年6月 (導出) (導出)			プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社に許諾。アジアでは香港、韓国にて発売中。中国にてフェーズ3実施中。
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	日本							視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。国内ではMSD社により片頭痛治療剤として販売中。
タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・ 高眼圧症	日本 欧州						(準備中)	プロスタグランジン関連剤およびβ遮断剤の配合剤。
網膜疾患領域										
未定	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	日本	(フェーズ 1/2)						ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与により長く安定した薬効持続性を確認。商業用スケールでの製造技術開発で米国オークウッド社と提携。
シロリムス	DE-109	滲出型加齢黄斑変性 糖尿病黄斑浮腫	日本	(フェーズ 1/2)						免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する結膜下注射および硝子体内注射剤。2010年6月に全世界での開発・製造・販売権を取得。
眼感染症領域										
レボフロキサシ (1.5%)	DE-108	外眼部感染症	日本				2010年2月			ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。承認審査中。
リウマチ領域										
未定	DE-098 (抗APO抗体)	関節リウマチ	欧州 日本	(フェーズ 1/2) (フェーズ 1/2)						RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。セントコア社から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。実生産規模での原薬製造工程を確立。日本および欧州にて治験実施中。

フェーズ1 (臨床第1相試験) : 少数の健康人志願者を対象に安全性を確認する試験

フェーズ2 (臨床第2相試験) : 少数の患者さんを対象に投与量や投与方法を確認する試験

フェーズ3 (臨床第3相試験) : 多数の患者さんを対象に既存薬やプラセボ (偽薬) と比較して安全性・有効性を確認する試験

# 四半期連結財務諸表

## 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

科目	当第2四半期 平成22年9月30日現在	前期 平成22年3月31日現在	増減額	科目	当第2四半期 平成22年9月30日現在	前期 平成22年3月31日現在	増減額
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
流動資産	118,927	118,832	95	流動負債	21,588	25,286	△ 3,698
現金及び預金	55,435	56,677	△ 1,242	支払手形及び買掛金	5,103	5,600	△ 497
受取手形及び売掛金	37,262	35,268	1,994	短期借入金	260	543	△ 283
有価証券	8,913	8,998	△ 85	未払金	7,467	7,936	△ 469
たな卸資産	13,356	13,623	△ 267	未払法人税等	4,544	6,618	△ 2,074
その他	3,959	4,264	△ 305	その他	4,211	4,588	△ 377
固定資産	48,451	48,046	405	固定負債	4,096	3,988	108
有形固定資産	25,376	26,574	△ 1,198	退職給付引当金	3,153	2,910	243
建物及び構築物	13,982	14,622	△ 640	その他	943	1,077	△ 134
土地	8,215	8,418	△ 203	負債合計	25,685	29,275	△ 3,590
その他	3,179	3,532	△ 353	<b>純資産の部</b>			
無形固定資産	1,044	1,231	△ 187	株主資本	147,819	141,866	5,953
投資その他の資産	22,030	20,240	1,790	資本金	6,591	6,538	53
投資有価証券	13,841	12,239	1,602	資本剰余金	7,286	7,233	53
その他	8,188	8,001	187	利益剰余金	138,922	133,053	5,869
資産合計	167,378	166,878	500	自己株式	△ 4,979	△ 4,958	△ 21
				評価・換算差額等	△ 6,432	△ 4,524	△ 1,908
				新株予約権	306	260	46
				純資産合計	141,693	137,603	4,090
				負債純資産合計	167,378	166,878	500

## 四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

	当第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	前第2四半期累計 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	増減額
売上高	53,914	59,123	△ 5,209
売上原価	17,435	17,768	△ 333
売上総利益	36,478	41,355	△ 4,877
販売費及び一般管理費	22,366	22,318	48
営業利益	14,112	19,036	△ 4,924
営業外収益	486	447	39
営業外費用	107	609	△ 502
経常利益	14,490	18,875	△ 4,385
特別利益	6	—	6
特別損失	113	206	△ 93
税金等調整前四半期純利益	14,383	18,668	△ 4,285
法人税、住民税及び事業税	4,537	7,337	△ 2,800
法人税等調整額	573	△ 340	913
四半期純利益	9,272	11,670	△ 2,398

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

	当第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	前第2四半期累計 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	6,294	16,013	△ 9,719
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 5,769	△ 1,252	△ 4,517
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 3,594	△ 3,122	△ 472
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 463	△ 197	△ 266
現金及び現金同等物の 増加額又は減少額	△ 3,532	11,441	△ 14,973
現金及び現金同等物の 期首残高	64,348	45,956	18,392
現金及び現金同等物の 四半期末残高	60,815	57,397	3,418

## ■ 取締役

代表取締役社長 兼 CEO

常務取締役  
経営全般、薬制担当

取締役相談役

取締役 常務執行役員  
研究開発本部長

社外取締役  
(医療ビジネスコンサルタント)

社外取締役  
(経営コンサルタント)

社外取締役

黒川 明

三田 昌宏

森田 隆和

西畑 利明

村松 勲

古谷 昇

濱本 龍彦

## ■ 執行役員 (取締役による兼務を除く)

常務執行役員 医薬事業部長

執行役員 アジア事業部長

執行役員 企画本部長

執行役員 サンテン・オイ取締役社長

執行役員 人材組織開発本部長

執行役員 管理本部長

古門 貞利

岩本 憲二

佐藤 正道

ユルキ・リリエロース

森島 健司

原田 哲

## ■ 監査役

常勤監査役

社外監査役 (大学教授)

社外監査役 (経営コンサルタント)

社外監査役 (他社社外取締役)

納塚 善宏

加護野 忠男

佐藤 康夫

宮内 英樹

社名	参天製薬株式会社	創業	1890年
本社	〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号 TEL：06-6321-7000（代表） 06-6321-7007（IR専用） FAX：06-6321-8400	設立	1925年
		資本金	6,591百万円
		工場	能登、滋賀、大阪
		研究所	奈良研究開発センター
		従業員数	2,818名（単体1,932名）

## ■ 主要子会社

### ① サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク

事業内容：北米事業の持株会社、事業開発

出資比率：100%

設立年月：2002年1月

### ② サンテン・インク

事業内容：医薬品の臨床開発

出資比率：100%

設立年月：1993年3月

(注) サンテン・ホールディングス・ユーエス・インクを通じた間接出資

### ③ サンテン・オイ

事業内容：医薬品の臨床開発・製造・販売・受託製造

出資比率：100%

設立年月：1997年2月

### ④ 参天製薬（中国）有限公司

事業内容：医薬品の臨床開発・製造・販売

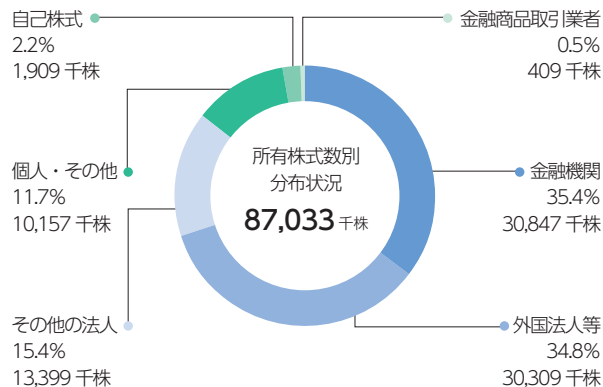
出資比率：100%

設立年月：2005年9月

# 株式の状況

(平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	220,000,000株
発行済株式総数	87,033,003株
単元株式数	100株
株主数	9,325名



## ■ 大株主の状況 (上位10社)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	12,598	14.5
三田産業株式会社	4,756	5.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,434	5.1
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505223	3,201	3.7
日本生命保険相互会社	3,013	3.5
東京海上日動火災保険株式会社	2,668	3.1
メロンバンクトリートリークライアンツオムニバス	2,121	2.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,120	2.4
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,912	2.2
アールピーシーデクシアインベスターサービスズトラスト, ロンドンレンディングアカウント	1,744	2.0

(注) 自己株式1,909千株(出資比率2.2%)を保有していますが、上記の大株主から除いています。

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL : <a href="http://www.santen.co.jp/jp/pn">http://www.santen.co.jp/jp/pn</a>
証券コード	4536
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL : 0120-094-777

## 株式に関するお手続き等について

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行の本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

〈お問い合わせ先〉

## 参天製薬株式会社

コーポレート・コミュニケーショングループ

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号

TEL : 06-6321-7000 (代表) FAX : 06-6321-8400

TEL : 06-6321-7007 (IR専用)

Email : [ir@santen.co.jp](mailto:ir@santen.co.jp) URL : <http://www.santen.co.jp>

※ ホームページに最新の情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



※ この冊子は、高齢の方にも見やすい文字 (UDフォント) を使用しています。